


YUKA KURODA Piano Recital 2008

黒田 ゆか **第6回** ピアノ・リサイタル

～ フランシス・プーランクの夕べ ～



2008年10月17日(金) 19:00

名古屋市千種文化小劇場

後援:東京音楽大学校友会、株式会社ヤマハミュージック東海
マネージメント: **RUNDE**

Program

オール・プーランク・プログラム Francis Poulenc (1899~1963)

三つの無窮動

Trois mouvements perpétuels (1918)

- | | |
|------------|---------------------|
| I. アッセ・モデル | <i>Assez Modéré</i> |
| II. トレ・モデル | <i>Très Modéré</i> |
| III. アレルト | <i>Alerte</i> |

ぞうのパバール (1940~45)

(ジャン・ド・ブリュノフ原作「ぞうのパバール／こどものころのおはなし」)

L'histoire de Babar, le petit éléphant

朗読: 天野鎮雄

ノヴェレッテ 第1番 (1927)

1re Novellette in C major

組曲「ナゼルの夜」 (1936)

Les soirées de Nazelles

- | | |
|---------------|---|
| 序曲 | <i>Préambule</i> |
| 変奏曲 | <i>Variations</i> |
| I. 栄誉の絶頂 | <i>Le Comble de la distinction</i> |
| II. 手のひらの思いやり | <i>Le coeur sur la main</i> |
| III. 無遠慮と慎み | <i>La désinvolture et la discrétion</i> |
| IV. 思考の成りゆき | <i>La suite dans les idées</i> |
| V. 口車の魅力 | <i>La charme enjôleur</i> |
| VI. 自己満足 | <i>Le contentement de soi</i> |
| VII. 不幸の味わい | <i>Le goût du malheur</i> |
| VIII. 老練の危惧 | <i>L'alerte vieillesse</i> |
| カデンツァ | <i>Cadence</i> |
| フィナーレ | <i>Final</i> |

即興曲第15番 ハ短調「エディット・ピアフを讃えて」 (1959)

Improvisation No. 15 in C minor "Hommage à Édith Piaf"



本日は「黒田ゆかピアノリサイタル2008～フランス・ブーランクのタベ～」にお運びいただきまして、本当にありがとうございます。

1988年の初リサイタルから20年になる今秋、これまでの時間をふり返りつつ、私の音楽経験からは切り離すことのできないフランス音楽と、今取りこんでいる「音の少ない楽曲からいかに多くのことを読みとり、感じとって演奏するか」というテーマに基づき、オール・ブーランクのプログラムでこのリサイタルをあげる喜びでございます。初めてのリサイタルを終え、私はフランスに夏期留学しました。そこで出会った故ピエール・バルビゼ氏のクラスは思いのほかカルチャーショックでした。そこには一昔前の往年のピアニスト達が伝える「芸術」としてのピアノレッスンがありました。またその後何期にも亘って師事したバスカル・ロジェ氏には厳格な基本を徹底的に叩き込まれました。ジャン・フィリップ・コラルール氏のクラスではフランス・メソッドの基本と応用を自在に操る氏独特のレッスン法に瞬く間に痺となり、その後10数年の歳月をかけた研究で今では初心者を使う楽譜から難曲まですぐに技法的解釈が出来るまでにまりました。

今回のリサイタルテーマは、1899年1月7日パリに生まれたドビュシー、ラヴェルの次代を担うフランスの近代の作曲家フランス・ブーランク。その繊細でファンタスティックな音空間とリズムの軽やかさ。…ひとを見る穏やかな優しさや軽妙、そんな人柄を反映させるような演奏で作曲家ブーランクを紹介できればと思います。劇音楽もたくさん手がけたブーランクですが、前半の音楽物語「ぞうのババル」ではピアノに擬声音の効果を出現しているところがたくさんあり、音で絵を語る、味わい深い作品。20数曲の小曲から成るこの作品には子守歌、ノクターン、即興曲、ギャロップ、ワルツ……さまざまな要素が盛り込まれ、ジャン・ド・ブルジョワ原作の絵本朗読とピアノのファンタジーが醸し出されます。この度またたくひよんな出会いから、ベテラン俳優の天野鎮雄氏が絵本の朗読をして下さることにになりました。いつもいつも温かい情熱をあえてくださる味わい深い語りどうぞご期待下さい。

後半の組曲「ナゼルの夜」はブーランクのピアノ作品のなかでも傑出のものとは私は思います。これは1990年名古屋市新進芸術家海外研修生としてフランスへ夏期留学した年にジョイントリサイタルで演奏しましたが、この作品をstudy againすることでほんとうにいろいろなことがよみがえってくる思いでした。18年前の演奏を聴くと今の自分には出来ない感受性のいきおいを感じます。当時この曲に思いを馳せ、私が組曲の1曲1曲につけた興味深い詩があります。この曲への思いはこの時と何も変わってはいませんが、このような詩を一夜で書き上げるインスピレーションの泉は私の若き日の思い出です。この作品にはいろいろな歌が聞こえてきます。宗教歌のごとく荘厳なものもあれば、華麗なコロラトゥーラ、ムーランルージュのキャバレー音楽を彷彿させる大衆歌まで。……いくつものメロディラインを探して歌うことは楽しいことです。まるでさざ波のように音楽が揺られ、オーケストラのように音楽が流れます。

ブーランクは音楽的にもとても恵まれた豊かな環境に育ち、その持ち前の豊かな教養と洗練されたセンスで、音楽院で学ぶこともなく自分の音世界を創り上げました。時に記譜法についた部分も見られるのですが、しかしながらそのつたなざゆえにブーランクの頭の中の莫大な音楽エネルギーを読みとることができるとは幸いです。1963年に亡くなりましたが、ブーランクの作品は未だ演奏されることは少ないですが、私には現代音楽のルーツを感じることも多々あり、興味深く思います。5年後の2013年には没後50年を迎え、彼の作品も今後10年のうちには皆様に親しまれるクラシック・レパートリーのひとつになることでしょう。

それではどうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

黒田ゆか



黒田ゆか プロフィール

東京音楽大学ピアノ専攻卒業。1989年より98年にわたり6夏渡仏、ニース国際夏期アカデミー及びパブロ・カザルス音楽祭夏期アカデミーを10期修了。この間バスカル・ロジェ氏、ジャン・フィリップ・コラルール氏に継続して師事し、ピアノ演奏の根本原理から演奏家の精神性、実践上の表現効果まで数々のことを学ぶ。第4回名古屋市新進芸術家海外研修生。主なコンサート歴は日本新交響楽団とコンチェルト共演（85年愛知厚生年金会館ホール）、「エリック・サティー展コンサート」（87年東京・プラタナス銀座）、「CBCサロンコンサート」（87年CBCホール）、第1回リサイタル（88年電気文化会館）、「名フィル+αコンサート」（89年カワイピアノサロン）、「ルンデ音楽する仲間たち」（89年スタジオ・ルンデ）、「アンサンブルトゥッティコンサート」（90年NHKCKホール）、「ピアノ&オーボエ・ジョイントリサイタル」（90年電気文化会館）では、「自由で関連なピアノを聴かせるピアニスト」（音楽の友誌90年11月号）、「日本人離れた音楽性」（音楽現代誌 同）と評された。ソロ・リサイタル（97年、98年、99年スタジオ・ルンデ）。97年より〈コンセール・イグレック At home HOT コンサート〉をシリーズで開催。第37回愛知県建設業災害防衛大会にてピアノ・ソロ・リサイタル（01年愛知芸術文化センター大ホール）を好演。〈シヨババルツ全19曲を奏でる〉と題したピアノリサイタル（04年熱田文化小劇場）。「徳重の朝市ミニ音楽会ピアノコンサート」（05年緑文化小劇場）、「朝イチ・ミニコンサート」（07年緑文化小劇場）、「大倉山ドキュメンタリー映画祭コンサート」（08年横浜・大倉山記念館）。05年より定期的に開催している「ピアニスト黒田ゆかの音楽レシビタひとときコンサート」が第10回を迎え名フィルオーボエ首席奏者山本直人氏と記念ジョイントコンサート（08年山のホール）、「まちの音楽家シリーズ・天白区編」（08年天白文化小劇場）で好評を博す。名古屋市内でフランスで学んだメソッドを軸に＜ピアノ教室コンセール・イグレック＞を開き、後進の指導にあたっている。小林 仁、故前川幸子、故ピエール・バルビゼ、バスカル・ロジェ、ジャン・フィリップ・コラルールの各氏に師事。文豪江戸川乱歩の従兄弟の孫。




ゲスト:朗読

天野鎮雄 プロフィール

1936年2月13日名古屋生まれ。

NHK名古屋放送劇団を振り出しに、文学座研究生、大島渚氏主宰の「創造社」「山本安英の会」などを経て、現在、ラジオ・テレビ・舞台で活躍中。

これまで出演した代表的な放送番組には、NHKテレビの「中学生日記」、銀河ドラマ「本日開店」、東海テレビの「アマチンの土曜リポート」をはじめ、「天ちんの土曜サロン」は、1994年9月まで15年にわたり長く親しまれてきた。また、東海ラジオでは深夜の「ミッドナイト東海」や「さん!さん!モーニング」、「アマチンのラジオにおまかせ」、「サタデーパーク アマチン通り」などがあり、「アマチン」の愛称で大活躍、多大な功績を残して親しまれてきた。なかでも1972年7月にスタートした早朝ワイド番組「さん!さん!モーニング」では、数々の社会福祉キャンペーンを実施し、日本民間放送連盟賞を3年連続受賞する。1981年、天野鎮雄を設立者として財団法人「愛知難病救済基金」が発足し、1994年、同理事長として地域社会に貢献している。放送活動とあわせて、地元の舞台活動が大きく評価されて、1984年度の愛知県芸術選奨文化賞を受賞。1985年度第1回パチンコ大衆文化賞受賞、1991年度東海テレビ芸能選奨受賞。1996年度名古屋芸術選奨大賞、2002年度愛知県条例による知事表彰を受賞。また、2006年度には文部科学大臣賞を受賞している。現在、若手演劇人養成のために名古屋「劇塾」を主宰し、また劇座(劇団)の代表でもあり、その成果に対しては1996年、社団法人日本演劇興行協会より表彰された。



Renewal M2F
名古屋店
鍵盤楽器売場

この度、
鍵盤楽器売場を中心に
リニューアル致しました。

ピアノ、エレクトーンの
オープン企画コンサート多数開催!
詳しくは弊社ホームページへ

URL <http://www.yamaha-tokai.jp>

10/10(金)
Renewal Open!!

M2F フロアイメージ

(株)ヤマハミュージック東海 名古屋店

〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 Tel 052-201-5151(代)

営業時間/10:45~19:00 定休日/火曜日

10/14(火・祝)は営業。
9/29(月)、10/22(水)臨時休業いたします。